



NO. 46 (通算220)

絵・文・題字 渋谷 一夫

こん虫たちの四季

南畑も虫類が少なくなつた。昔は虫たちの宝庫で、種類も数も挙げたらキリがないほどだった。

そこで今回は、トンボとセミの出現時期や生態を追ってみた。

声を出さないトンボ

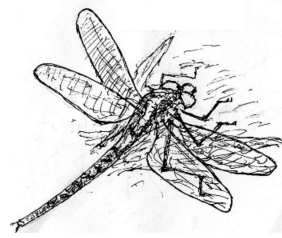
トンボは、声を出さない。知らぬ間にそっりと現れる。飛び方も止まり方もまちまちだ。

まず、最初に出現するのはサナエトンボだ。早苗の頃出てくるのでサナエトンボ。小型のオニヤンマのようだ。

やがてシオカラトンボだ。雄は、しっ尾の半程に白い模様がある。雌は麦わら色、ムギワラトン

翅を開いて止まる

トンボ サナエトンボ



ボともいう。身近でよく見かける。翅を開いて止まる。

次に出てくるのがヤマダ。代表的なのがオニヤンマとギンヤンマ。オニヤンマは、水路や池の上を低空で旋回する。雑

木林や屋敷の小道も通り道だ。いわゆるトンボ道だ。ギンヤンマは、麦畑

の上をよく旋回していた。ナワバリだ。虫が飛び立つのを待っているのだ。カトリヤンマは、夕方

一斉に飛び立つ。日中は日陰で休み、蚊が出る頃

に捕食に向かう。昔は、夏の夕方、庭先を何百匹も群舞していたものだ。

やがて秋、アカトンボが姿を現す。ナツアカネやアキアカネだ。体色が鮮やかな赤になり、山から戻ってくる。



ナツアカネ

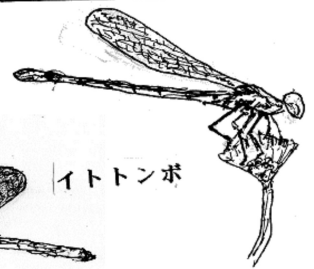
以上のトンボは、いずれも翅を開いたまま止まる習性がある。

田んぼ周辺はイトトンボ。翅を閉じて止まる。姿は優雅。色合いもさまざま、花が咲いたよう

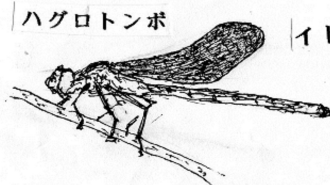
だ。また川原にはカワトンボ、屋敷林にはハグロトンボ、どちらも同じ仲間、翅を閉じて止まる。

こうしてトンボの1年も終わりを告げる。

翅を閉じて止まるトンボ



イトトンボ



ハグロトンボ

セミはにぎやか

セミも、種類によって出現時期が異なる。五、六月、まず出てくるのがニイニイゼミ。木の幹に

脱け殻がよく見られる。ジージーと声うるさい。蝉時雨だ。芭蕉の

「閑さや 岩にしみ入る 蝉の声」のセミはニイニイゼミらしい。

引き続きアブラゼミが出現する。大型のセミで、ジワジワと聞こえる。結構うるさい。

やや遅れてミンミンゼミだ。最初は鳴き方が

下手、ミンミンジーと終わってしまう。やがて上手になり、ミンミンミンミンミンミンミンミンミンと鳴けるようになりその成長が面白い。夏も終わりになる

とツクツクボウシだ。オーシンツクツク、オーシンツクツク：チョコチョコイヨと、冬支度を急げよと急ぎ立てる。

ニイニイゼミ



脱け殻



だが不思議なことに、南畑でヒグラシの声を聞いたことがない。野方ではよく聞く。何故なのか調べると面白そう。こうして南畑地区のセミの1年も終わる。

